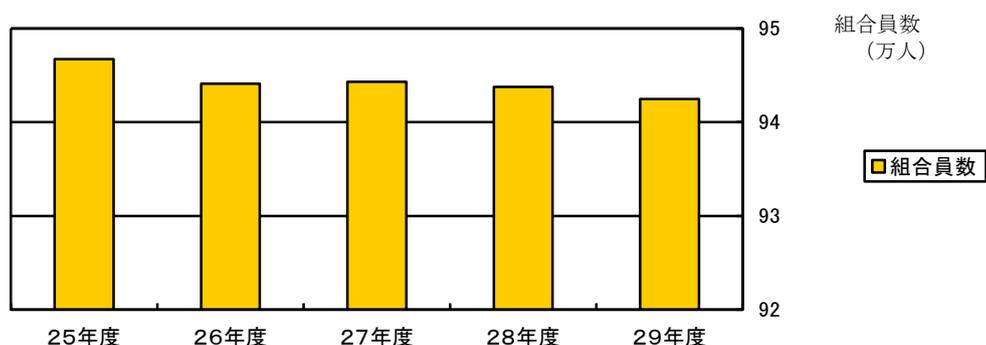


## 「平成29年度決算」の概要

### ○組合員数

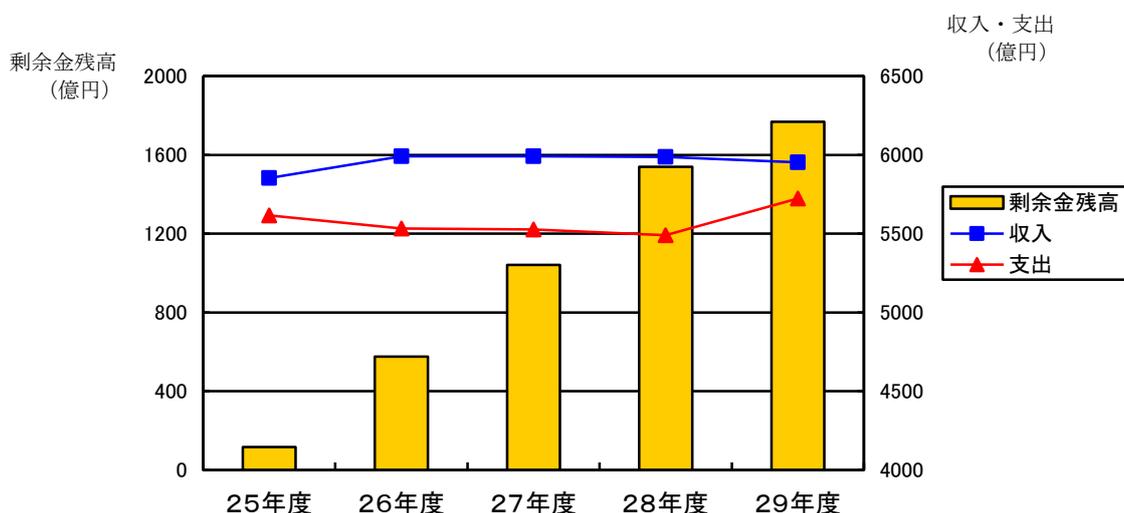
29年度末の組合員数は94万2,455人で、28年度末より1,310人減少しました。

少子化の傾向、当共済組合の組合員の年齢構成の特徴（40歳台後半から50歳台の組合員数が多い）を考えると、組合員数の減少は続くものと見込んでいます。



### ○短期給付事業

収入は、組合員数の減少等により掛金・負担金収入が減少しました。給付に係る支出は、被用者保険適用拡大による被扶養者の減少等の理由から減少しましたが、高齢者医療制度への財政負担が増加したことにより支出全体では増加となりました。収支差約229億円を利益金として計上し、29年度末では剰余金が約1,768億円となりました。

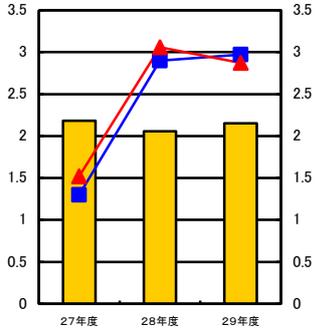


### ○長期給付事業

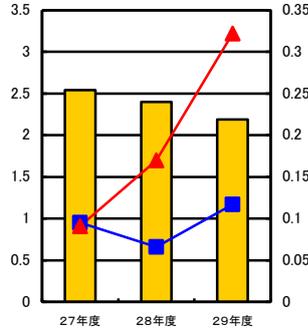
29年度末の長期給付事業にかかる積立金は、厚生年金保険経理約2兆1,533億円、経過的長期経理約2兆1,989億円、退職等年金経理約2,225億円となりました。

積立金残高  
(兆円)

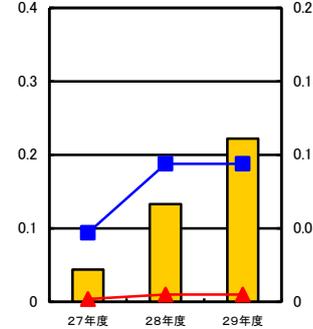
厚生年金保険経理



経過的長期経理



退職等年金経理

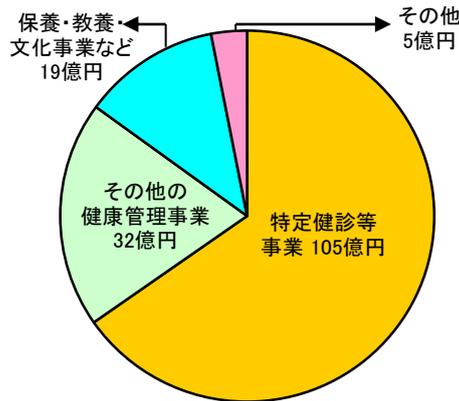


収入・支出  
(兆円)



### ○保健事業

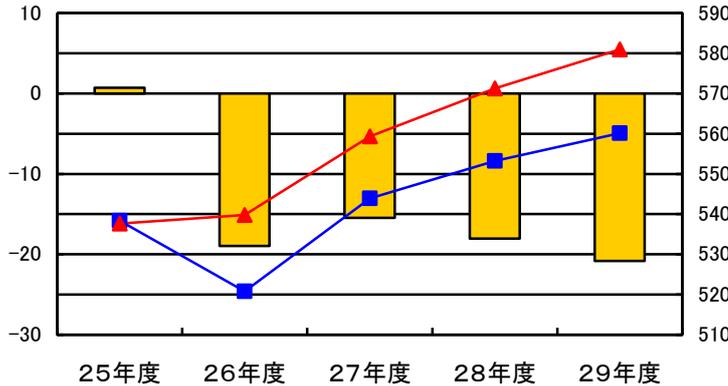
29年度の保健事業全体の支出額は約161億円となり、そのうち、組合員とそのご家族の健康管理事業への支出額は、約137億円（支出全体の約85%）でした。



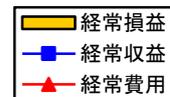
### ○医療事業

病院全体の経常損益は赤字となりました。組合員のメンタルヘルス事業の充実を図るなど、職域病院としての役割を果たしつつ、経営改善に努めます。

経常損益  
(億円)

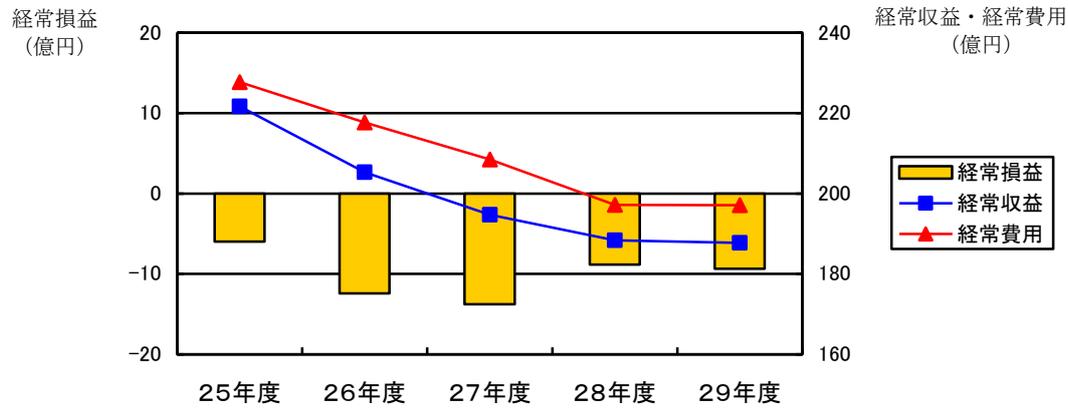


経常収益・経常費用  
(億円)



### ○宿泊事業

宿泊施設全体の経常損益は赤字となりました。厳しい経営状況にありますが、サービスレベルの向上を図りつつ、経営改善に努めます。



### ○貸付事業

平成30年1月から貸付金利率を引き下げたことにより、新規貸付件数は増加しましたが、貸付金残高は減少を続けています。

